こころ

発行所
カトリック福江教会
広報委員会
五島市末広町3−6
☎ 0959(72)3957
●ホームページ●
http://www15.ocn.ne.jp/~mikokoro/

主日ミサを大切に

主任司祭　下口　勲

カーン、カーン　夫婦も親子も　ジンジとバンバも皆　ミサ拝み

福江小教区の信徒のみなさま、明けましておめでとうございます。今年がみなさんにとって平和で幸せな年となりますよう心よりお祈り申しあげます。

〝光陰矢の如し〟と申します。福江教会に赴任してから早くも3回目の正月を迎えました。赴任して2年が過ぎる頃になると、教会の雰囲気に溶け込むのに時間がかかる堅いタイプの私であっても、顔なじみとなる信徒が大勢でき、さらに教会の現状把握、課題と対策も見えるようになり、信徒と触れあいながら、共に、参加し、交わり、宣教する教会づくりの司牧活動が楽しくなって来ています。これにはひとえに我慢強く付き合ってくださる信徒の皆さんの理解があるからだと感謝しています。

さて、震災元年だった旧年（2011）は、高齢者司牧として位置づけ、計15人の高齢者家族を訪問させてもらい、聞き書きに協力していただき、ありがとうございました。教会献堂50周年と信徒会館落成の今年（2012）は、特別な年間目標の設定は必要でない年と考えていましたが、それでも敢えて設けるとするなら、主日ミサ典礼を充実させる年にしたいと思います。そのためにはどうしてもミサに預かる信徒の協力がかかせません。いろいろな協力が必要ですが、一番基本的な協力とは、主日ミサ参加の意義を理解してもらい、天候に左右されることなく、家族で、夫婦で、親子で継続して出席することです。神を必要としない世俗主義に押し流されることなく、神の愛を確かにする主日ミサ参加が必要であると思います。信徒総数に対する出席率の向上のために是非ご協力をお願い申しあげます。

主日ミサ参加の重要性の根拠

なぜ、主日ミサ参加が大切かについての説明の代わりに、今回は、以下の通り、歴代主任司祭の中から松下佐吉神父と浜口庄八神父に紙面に登場してもらい、ミサについての先輩司祭の考えを紹介することにしたいと思います。

（松下神父が神学生に宛てた手紙）

「司祭と信徒の理想は、神であり、人間であったイエス・キリストに似ることにあります。それには聖パウロに倣って、キリストのみに生き、キリストとの交わりを体験し、キリストを人に伝え、与える捨て身の修業が要求されます。その道場をわたしはミサ聖祭の壇上に求めています。十字や合掌のひとつひとつにも心を込める修業を一生続けて下さい。」

（浜口庄八神父 浦上小教区広報誌「神の家族」より）

「洗礼によって古い人間から新しい人間に生まれ変わるだけでは十分でありません。成長していかなければならないのです。人間はからだが成長していくために栄養になるものを食べたり飲んだりしなければならないように、イエスは最後の晩餐の席で、わたしたちが神の子として成長させるために、霊的栄養としてご自分のからだを、取って食べるようにと、ミサ聖祭を制定されました。自然の命では、食べ物が人のからだとなりますが、ミサ聖祭においては、聖体を食べた人が食べられたキリストの命の中に溶け込み、キリストと一致し、交わり、そこから神の愛を証する宣教の力を汲み取るのです。」

信徒会館 棟上げ

十二月十一日（日）二番ミサの後、建設中の信徒会館上棟餅まきが行われた。

基礎工事も終わり工事の節目である鉄骨が組み上がり信徒会館の大きさがみえてきた。

当日は、雨上がりに加え、場所が狭いこともあって、車庫の上、教会、信徒会館の上などからいっせいにお祝いの餅がまかれた。

ミサ後に待っていた信徒の方々が喜んで拾い、一気にお祝いムードに包まれた。これから、三月末完成に向けて、安全に工事が進んでいくようお祈りします。

『用意された道「洗礼」』

山川琴絵

私の仕事は接客業なので、多くの人々と出会い、又今まで体験しなかった事、知らなかった事にも出会います。仕事で巡礼に参加する事もありました。その中で、日本人・外国人の神父様、シスター、信徒の方と時間を共にしました。「カトリック」の意味も分らなかった私ですが、皆さんと共にミサに与かり、神父様から祝福して頂いた後は、心から安らかになるので不思議でした。言葉では表現できないような神秘的な感覚です。

私は、息子が生まれた後に離婚しました。仕事にも就けましたし、借家での母子の生活。両親・親戚に手助けしてもらいながらの生活です。他の家庭に比べると、子育てもしやすい環境だと思います。忙しい私に代わって、子守りもしてもらえますし、感謝しないといけません。しかし心は余裕ができませんでした。精神的・肉体的な疲れと、不安定な生活で考え込むことも…。

池長大司教様と山川琴絵さん

そんな生活の中で、私の心が楽になった事が、巡礼でのミサでした。多くの人の話を聞いたり、神父様のお説教を聞くと、もっと詳しく「カトリック」の事を知りたいと思うようになりました。それまで宗教には無頓着だった私ですが、巡礼を通し同じ仲間になれると素敵だなと考えるようになっていました。しかし、何から始めれば良いのか分からず一歩を踏み出せないまま時間が過ぎて行きました。

そんな生活の中で、昨年の秋に素敵な出会いがありました。大阪大司教区、池長潤大司教様との出会いです。一緒に過ごしたのはごく僅かな時間ではありましたが、私を大きく変えてくれた機会となりました。大司教様から声をかけられました。

「あなたは信者さん？」

「違います。」

「私達と同じように感じます。信者になる気持ちはないですか？　自分から福江教会の下口神父様にお願いしますから…。」

「仕事が忙しく、お勉強にも余り行けないと思いますが、それでも信者になれますでしょうか？　前々から気持ちはありました。」

「大丈夫。神を信じる気持ちがあれば、立派な信者さんだよ。一度でもいいから、教会で神父様の話を聞きなさい。良い信者さんになる事を祈っていますから。」

こうして福江教会を訪ねる事ができました。勇気のなかった私の背中を押して下さった事に感謝しています。福江教会では下口神父様が、優しく受け入れてくれました。勉強も分かりやすく話して下さいます。たまにユーモアを混ぜながらのお話、緊張していた私も心を開いていく事ができました。

何度か小島神学生からも教えて頂きました。父と親戚だと聞いて驚きました。勉強をしながら少しずつ悩みがでてきます。教会に勉強に行けても、ミサに与かりに行く事がほとんどできない事でした。神父様から、「その分、家での祈りを大事にして、神様と会話をしなさい。」と教えられた時、救われた思いでした。神学生からも、「ミサに行けないと悩むのではなくて、できる事をしなさい。神様を忘れず、時間の空いた時に隣に神様がいると思い会話をしなさい。」と教えて頂きました。

神父様と神学生のお二人に丁寧に

教えて頂き、ようやく復活祭を迎える事になりました。その前に、代父母、信徒の方々にお会いしました。皆さんが心優しい方で「ホッ」とした事を覚えています。洗礼名は池長大司教様がつけて下さいました。準備は整い、復活祭で洗礼を受ける事ができました。何とも言えない嬉しさ、たくさんの方々からお祝いの言葉、お祝いの品も頂きました。本当に有難うございます。

数日後、神父様と代父母の方からのお祝いの席がありました。その時ゆっくり会話ができて、貴重な時間となり大変良い思い出です。その後も色々気を掛けて下さったりと感謝しています。

一方、大司教様とも連絡を取り合っていました。いつか再会したいと前々から話していましたが、去年の夏ようやく実現しました。大司教様に会いに大阪へ、優しい微笑みで出迎えて下さいました。三才の息子も一緒なので、神戸の花鳥園へとむかいます。鳥や花に囲まれた空間で、ゆっくりと時間が過ぎて行きます。洗礼の祝いだと、夕食まで御一緒になりました。私がお礼に伺ったつもりが、またお世話になる結果となりました。楽しい時間はあっという間に過ぎていきます。とうとうお別れです。「また会いましょう。それまでお元気で…。」

最初に出会った時、私は池長大司教様がどんなに偉大な方か知らずに接していました。大司教の意味さえ分からなかったのですから。のちに段々と分かって、何て無礼だったのだろうと恥ずかしくなりました。お忙しい大司教様と過ごせた事、大変幸せな事です。

今、落ち着いて考えてみると、全て神様のお計らいで用意されていた道ではないかと思います。見えないお恵みに日々感謝を忘れず、一生懸命に生きていきます。ミサに行く事が余りできず、皆さんにも心配かけていますが、これからも御指導お願いします。

第33回 長崎教区 司祭団マラソン大会

1月31日

今年で33回目となる恒例の長崎教区司祭団マラソン大会が、1月31日（火）に行われた。

例年ゴールとなる福江教会が、信徒会館建設中で使用できないため、スタート&ゴールは浦頭教会。8・3キロのマラソンにエントリーしたのは、22人の司祭団（うち広島教区1人）と信徒4名。

松山町の、聖マリアの園を折り返すコースは、〝曲坂〟が難所で特に復路が、厳しい登り坂と向かい風でランナーたちを苦しめた。しかし、沿道の要所要所には、応援の信徒らが陣取り、ランナーは気の抜けない状況で、気力をふりしぼって走った。また、かわいい保育園児らの声援には、思わず笑顔もこぼれる。

浅田神父様優勝！

さわやかな笑顔でゴール！ 岩崎神父様！

園児の声援「神父様がんばってー。」

トップでゴールしたのは、浅田照明師（39分13秒）。福江教会信徒の堂崎英明さんと、同タイムで堂々の優勝。

浅田師は、今回で通算5回目となる久々の優勝で、「日頃の練習は？」との問いに、「聖務の合間を縫って、ちょこちょこ走っている。」とのこと。

また、4キロのウォーキングの部に参加したのは、高見大司教、広島教区前田万葉司教と両教区の司祭ら、合わせて11人で、マラソン、ウォーキング共に参加者全員が、元気にゴールした。

優賞　浅田照明師、2位　新立大輔師（神言会）、3位　鶴崎伸也師

■ 司祭団マラソン大会ミニ知識

第1回大会　昭和52年［1977年］
忠太首～福江教会　健康維持と司祭団の健康維持のため、下五島の司祭を中心に8人ほどで始まった。

第2回大会　昭和54年［1979年］
若手司祭13名が、健脚を競う。

第3回大会　昭和55年［1980年］
地元信徒が、沿道で声援。

第4回大会　昭和58年［1983年］3年ぶりに開催。

第4回大会以降は、毎年開催され、今では、長崎大司教区の恒例行事となっています。

教会学校だより

†主の平和

初めての教会学校だよりです。

今回は、神様の子供として教会で一つの大切な役割を担い、頑張っている子供たちを紹介したいと思います。

現在、福江教会には、小学2年生から中学1年生までの16人の侍者組が結成されています。侍者たちは主日のミサや典礼行事はもちろん、月曜から金曜日の週日、朝6時からのミサの侍者も分担して、奉仕してくれています。

週日のミサの後には、急いで登校しますし、寒くて真っ暗な冬も関係ありません。週に1回とはいえ、子供たちにとっては決して楽な奉仕ではないでしょう。この大変さを覚悟で、侍者の奉仕を引き受けてくれた子供たちは、今、両親をはじめ、御家族の皆様の協力を得て、ほとんど欠かすことなく、責任を持ってその務めを果たしてくれています。

『毎日のミサに子供の侍者たちがいる。』福江教会の私たちにとっては当たり前のことですが、島外の教会からすると、これはとても貴重な光景で、巡礼で訪れ、共にミサに与る方々には感動を与え、良き励ましになっていると思います。侍者のいないミサはやはり寂しいものです。侍者はミサの活性剤であり、私たちの教会に恵みとうるおいをもたらしてくれています。

そして、また何より神様の喜びです。同じ教会の一員として、侍者の子供たち、その御家族の働きに深く感謝しています。いろいろな思いを我慢して、頑張ってくれている子供たちを、きっと神様は十分に報いてくださっています。

これからも、子供たちが侍者に限らず教会のために、快く奉仕する者として成長していけますように、祈り・励ましていきたいと思います。どうぞ、皆さまも侍者たちに、温かい言葉かけ、励ましをお願いします。

最後に、福江教会という神の民が、一つとなって、良き奉仕を捧げていけますように、祈りつつ。

（カテキスタ）

［あなたがたはキリストの体であり、また一人一人はその部分です。一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分がともに喜ぶのです。］

（コリントの信徒への第一の手紙12章）

下五島地区 合同堅信式

1月22日（日）11時より、下五島地区合同堅信式が福江教会にて高見大司教様の司式で行われた。

昨年から全小教区合同での堅信式となっており、今回は合わせて23名の受堅者で、その中で福江教会からは1名のみであった。

当日は、朝から冷たい雨が降る寒空の中、教会境内で高見大司教様を迎え堅信式が始まった。受堅者は、家族や多くの信徒に見守られ、洗礼の更新をした後、堅信の儀で御父の賜である聖霊を受けた。

堅信式の後、大司教様へのお礼の言葉が浦頭教区の中学生からあり、信仰を守り伝えていく旨の力強い言葉を聞くことが出来た。

編集後記

今年最初の「こころ」の発行となりました、厳しい寒さが続きインフルエンザが流行していますが皆様いかがお過ごしでしょうか。今年も、役に立つ情報と教会行事やお知らせなど、信者の皆様の幅広い層に亘る信仰の思いを紹介していきたいと思います。また今年は間もなく新信徒会館の完成、また福江教会献堂50周年…など身近なところで記念すべき行事も行われますので、広報委員会として紙面に残すことでお役に立てるのではないかと考えておりますので今後ともご協力よろしくお願いします。

（山下）